

# Hokuriku Polymermate

## 支部長退任の御挨拶

富山大学理工学研究部 北野博巳

川上雄資先生の後任として支部長を務めて参りましたが、2年があつという間に過ぎました。責任ある立場にふさわしい仕事ができたと自問すると、反省点ばかりが浮かんで参りますが、支部構成員の皆様の御協力で辛うじて、任期を了えることができます。誠にありがとうございました。この間、福井大学、新潟大学で行われました支部研究発表講演会では、懸案でありました学生の優秀研究発表の表彰を行うことができました。研究者、技術者の卵である学生の皆さんの励みになる催しとして定着し、さらに応募者が増えてほしいものです。ところで北陸支部では、次期支部長の佐伯進先生のもとで2011年に福井地区で夏季大学が、さらに次次期支部長のもとで2013年には金沢大学で高分子討論会が開催されることになりま

した。ついこのあいだ富山大学で高分子討論会が開かれたばかりのような気がしますが、3大行事に高分子材料フォーラムが加わって4大行事となり、「まわり」が早くなりました。それぞれの行事の運営は、会員数の少ない北陸支部としては大変ですが、支部構成員にとりましては地元での開催ですから、最新の情報に接する機会が増えるという意味で、喜ばしいことでもあります。地域の企業からの支部活動への参加を促すよい機会ともなるでしょう。私も支部の活性化のために、はなはだ微力ではありますが、今後もしろいろな行事に参加させていただき、ご協力を惜しまない所存です。

簡単ではありますが、支部長退任のご挨拶とさせていただきます。

## 高分子学会北陸支部長就任を前に

福井大学大学院工学研究科 佐伯進

北野博巳先生の後任として平成22年度から2年間、支部長という重責を拝命いたしました。副支部長の際の経験を思い起こし北陸支部活動の活性

化にむけ、少しでも役立てるよう頑張る所存です。これからの支部での大きな行事を考えますと、平成23(2011)年7月に高分子夏季大学、平成

25(2013)年に高分子討論会の開催が予定されております。今年、第56回の高分子夏季大学に向け、入念な準備を考えております。また、定例となっております北陸支部研究発表会、若手研究会、日本海ポリマーワークショップ、北陸ポリマーフォーラムは、各地区での大きな行事となっており、優秀研究賞、地域振興賞などを通し引き続き、支部活性化をはかりたいと思っております。

今年、地球環境問題の重要なキーワードと1つ

といわれる「国際生物多様性年」のスタートの年です。さらにCO<sub>2</sub>削減など環境対策がさらに加速する年でもあります。これからの支部活動を考える場合、幾分でもそれらの時代の流れに沿い具体的に、できることから始めるスタンスは必要ではないかと考えております。引き続き、支部活動に対し会員各位の更なるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 平成21年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費） 「研究成果公開発表（B）」事業報告

富山大学大学院理工学研究部 北野博巳

「高分子体験ゾーンーナノテク・バイオが織りなす未来」と題して、平成21年8月19日(水)に富山大学工学部において、標記事業を行いました。

巨大分子物質を扱う高分子化学は、あらゆる産業・技術・文化を支えているだけでなく、ナノテクノロジー、バイオテクノロジーなど日々進歩を遂げている科学技術の最前線において不可欠の学問であります。資源小国の我が国が、快適な生活水準を維持する持続可能な社会を構築するには、たゆまない科学技術の発展が必要で、そのためには、社会の発展に対する科学技術の重要性への国民の理解に加えて、科学技術を志す次世代の人材育成が必須であり、産・官・学が一体となって取り組むべき重要課題といえます。そこで、主に富山県内の中学生・高校生を対象として、最先端の高分子科学技術に関するシンポジウム講演を行うとともに、関連した実験を若いシンポジウム参加者が実体験することによって、高分子を含む化学の面白さとその重要性を実感してもらうことを目的としました。

本シンポジウムは、講演会と実験の二部構成で、講演会では、中学生および高校生のグループに分

け、各グループ2件の講演を実施し、最新の高分子科学、また高分子が支えるナノテクノロジーやバイオテクノロジーの動向やその重要性などについて分かりやすく解説しました。これにより、高分子がいかに関係しているのか、さらに21世紀の社会を維持するために如何に必要な学問であるかを感じてもらい、高分子の面白さや重要性を具体的なイメージとして捉えてもらうことができましたと考えております。次いで、第二部では、やはり中学生と高校生のグループに分かれて、高分子と関連のあるナノテクノロジーやバイオテクノロジーといった普段の生活や学校では体験できない実験に参加してもらいました。中学生には高分子化学の基礎とその面白さを体感してもらい、高校生には最先端の高分子化学に触れてもらった結果、参加者から喜びの声を聞くことができました。また、地元メディアによって報道されたことにより、参加できなかった中・高校生にも、広くアピールすることができたと考えております。

### 【講演・実験内容】

中学生の部（参加者33名）

講演1 「高分子と私たちの生活」  
講演2 「のぞいてみよう酵素の世界」  
実験1. 酵素ってどんな働きをするのかな？  
実験2. 紙で色を分けてみよう  
実験3. 洗濯のりの中で働く高分子  
実験4. ポリウレタンを作ってみよう  
実験5. 人工いくらを作ってみよう

高校生の部（参加者13名）  
講演1 「高分子の未来」  
講演2 「役に立つ高分子 高分子と分離・電気・光」  
実験1. 高分子吸着剤  
実験2. タンパク質を大きさで分けてみよう  
実験3. 電気を流す高分子を作ってみよう！  
実験4. 人工オパールを作ろう

## 第57回高分子学会北陸支部研究発表会報告

福井大学大学院工学研究科 前田 寧

2008年11月15日（土）、16日（日）に福井大学において第57回高分子学会北陸支部研究発表会を開催しました。4年に1度の福井での研究発表会は、これまでと同様に「支部合同福井大会」として「平成20年度日本化学会近畿支部・北陸地区講演会と研究発表会」と合同で開催し、両学会の運営委員会が協力して実施しました。

今回、はじめて「高分子学会北陸支部優秀研究賞」を設け、学生の優秀な研究発表を表彰しました。全体で16件の推薦があり、事前の書面による審査と発表の審査により栄えある第1回受賞者として、高分子化学部門には小原正之君（福井大、ポリスチレンの熱分解生成物スチレンダイマーおよびスチレントリマーの種々の重合による新規ポリ（スチレン誘導体）の合成）、高分子構造・高分子物理部門には谷口真一君（長岡技科大、液晶性-非晶性ブロック共重合体の高次構造形成におけるミクロ相分離と液晶化の相関）、高分子機能部門には加藤千依君（福井大、超高圧印加したシクロデキストリン包接化合物中のゲスト分子運動性の赤外分光法による評価）が選出されました。受賞者には特別講演に先立つ表彰式において賞状と副賞を贈呈しました。この賞の規定や実施細目の立

案から実際の選考までを選考実行委員が中心になって行いましたが、初回の反省点を元にいくつかの改正を提案して、次回に引き継ぎました。支部研究発表会の魅力を高めるような制度になってゆくことを願っています。

また、「地域産業振興賞」は、日華化学株式会社の西野正和様が受賞され、「水性ポリウレタン樹脂の開発とその応用」と題する受賞講演を頂きました。学生を含む多数の聴衆は企業の実践的な研究に触れることができ、大いに刺激されたと思います。

引続き、東京農工大の朝倉哲郎先生から「絹の繊維化機構の解明と新しい絹様タンパク質の設計・生産・再生医療への応用」、京大の西尾嘉之先生から「セルロース系糖質高分子を基軸とした新規機能材料の創製」と題する講演を頂きました。両先生の長年に渡る研究成果について大変きれいに分かりやすく話して頂きました。両先生にはご講演の準備に多大な時間を裂いて頂き誠に有難うございました。厚くお礼申し上げます。

「一般講演」に関しては、3会場で2日間に渡り合わせて83件のご講演があり、各会場とも活発な討議が行われ、有意義な研究発表会となりま

した。「懇親会」は福井大学生協にて両学会合同で開催されました。約180人の参加があり、熱心に研究や大学を取り巻く状況について話し合っている人達に、再会を楽しんでいる人々と和やかな時を過ごしました。

最後に、本研究発表講演会を盛会のうちに終えることができましたのは、計画や準備段階からご尽力頂いた福井大学の実行委員や学生の皆様、そして多くの参加者の皆様のおかげです。心よりお礼申し上げます。

## 2009 年支部合同新潟地方大会 (第 58 回高分子学会北陸支部研究発表講演会) 報告

実行委員長 新潟大学超域研究機構 金子 隆 司

2009 年支部合同新潟地方大会（第 58 回高分子学会北陸支部研究発表講演会を兼ねる）が、本支部と日本化学会関東支部との共催で、8 月 27 日（木）、28 日（金）の両日、新潟大学工学部で開催されました。本大会は 347 名（一般 101 名、学生 246 名）の参加登録、一般研究発表 165 件（内、高分子関係 86 件）、特別講演 6 件（内、高分子関係 3 件（受賞講演 1 件含む））を頂きました。

本年度の地域産業振興賞は、アグリフューチャー・じょうえつ(株)の大野孝氏が受賞され、「地産地消のバイオマス新素材-バイオマスプラスチックの新たなアプローチ」と題して受賞講演頂きました。米や穀類など、新潟地域で調達可能なバイオマス資源と合成高分子との高分子複合材料について興味深く紹介いただきました。

特別講演（高分子関係）として、川上雄資先生（北陸先端大院）と手塚育志先生（東工大院理工）に御講演賜りました。川上雄資先生の御講演は「北陸の高分子研究者に期待する」と題しまして、長年にわたる先生の研究展開を取り上げながら、大学の研究者の役割、企業の研究者の役割について含蓄の深いお話を頂きました。手塚育志先生の御講演は「高分子トポロジー化学：「かたち」からはじめる高分子材料設計」と題しまして、「かたち」とトポロジーの基礎から、トポロジー幾何学的構造パラメータを精密に制御した多環状トポロジー

高分子について紹介いただきました。

高分子関係の一般講演は 3 会場で実施され、初日の午前中に前年度より創設された「高分子学会北陸支部優秀研究賞」の審査が「高分子化学部門」「高分子構造・高分子物理部門」「高分子機能部門」に分けてそれぞれの会場で実施されました。今年度の受賞者は、高分子化学部門：池谷光博（北陸先端大院）「異なるドナーを有する Ziegler-Natta 触媒の連鎖移動性に関する速度論的検討」、高分子機能部門：加藤拓也（福井大院工）「ホスト分子の空隙サイズに依存したフラーレン包接化合物の光電流応答」となりました。審査の結果、残念ながら高分子構造・高分子物理部門では該当者無しとなりましたが、今後も多くの学生研究者が応募されることを期待しています。

懇親会は新潟大学生協第一食堂にて開催されました。両支部の会員が一体となり、和やかな雰囲気の中で親睦を深め、情報交換をできたものと思います。

新型インフルエンザ感染防止対策をアナウンスして消毒液を準備するなどのかいもあり、その後感染したとの報告もなく、無事に全日程を終えることができました。

最後になりましたが、本大会に参加いただきました多くの方々、ならびに多大のご協力を頂いた実行委員の先生方および学生諸氏にお礼申し上げます。

ます。

## 平成 20 年度北陸地区高分子若手研究会報告

実行委員長 福井大学大学院工学研究科 佐々木 隆

平成 20 年度北陸地区高分子若手研究会が 2008 年 11 月 14 日に福井市の「すかっとランド九頭竜」にて開催された。「若手研究者が拓く新高分子科学」というテーマのもと、学生を中心として 95 名の若手研究者が参加した。特別講演では高分子物性と合成の分野でそれぞれご活躍中の金沢大学理工学研究域河村幸伸氏、および京都大学大学院工学研究科森崎泰弘氏を招いた。基礎的な事項から最近の先端的な研究成果までたいへんわかりやすくお話しいただき、大学院生をはじめとする若手研究者にとって大きな刺激となった。

続いて体育館でおこなわれたポスターセッションでは 55 件の発表があり、活発な議論が行われた。熱心に聞き入る学生を相手に丁寧な説明をする学生の姿が印象的だった。ポスターは見栄えの良さだけでなく、内容も充実したレベルの高い力作ばかりであり、また教員の指導が行き届いている様子がうかがえた。教員投票によるポスター審査では、得票がかなり分散して同票者が出るなど受賞者の選出に頭を悩ませたが、最終的に下記のとおり最優秀ポスター賞と優秀ポスター賞が選出された。

### ・最優秀ポスター賞 (1 件)

福井大学大学院工学研究科 亀岡浩二「高い二酸化炭素選択性を有する新規スルホン化ポリ(ジフェニルアセチレン)の合成」

### ・優秀ポスター賞 (3 件)

新潟大学工学部 高橋諭史「微細孔構造を有するシリコンを用いた高分子ゲルの表面構造制御」

新潟大学工学部 安藤正人「熱応答性カーボンナノチューブの作製とその評価」

金沢大学大学院自然科学研究科 橋詰正義「ピレンシクロデキストリンダイマーの合成とその特性」

今回は試みとして、従来のポスター発表の要旨集を廃止し、配布資料はプログラムと特別講演の要旨のみとした。その分で生じた金銭的余裕を懇親会の料理の充実にあてた。そのせいもあつたのか懇親会ではポスターセッション以上に参加者同士の交流と親睦がはかられ、盛会のうちに幕を閉じることができた。



## 平成 21 年度北陸地区高分子若手研究会報告書

実行委員長 新潟大学工学部 八木政行

2009年8月26日に平成21年度北陸地区高分子若手研究会が、「若手が担う新機能高分子の展望」と題して、ウエルサンピア新潟（新潟市）で開催された。高分子学会ならびに高分子学会北陸支部から多くの援助を頂いたおかげで、遠方から100名を超える若手研究者（参加者総数111人、内宿泊者57人）が集まり盛大な会となった。本会は招待講演・ポスターセッションおよび懇親会で構成され、お昼過ぎから深夜までお互いの研究や最近のトピックスに関する活発な議論を通して、大いに親睦を深めた。招待講演では、金沢大学大学院の生越友樹先生による「環状ホスト分子の合成とハイブリット材料への応用」と、信州大学大学院の鈴木正浩先生による「自己組織化するL-アミノ酸誘導体—超分子ナノファイバー形成による溶媒のゲル化—」の2件の講演が行われた。生越先生の講演では、シクロデキストリンおよびその誘導体の包摂化合物の生成平衡から応用を指向した研究までを平易に講演して頂いた。鈴木先生の講演では、アミノ酸を基本骨格とした低分子ゲル化剤の分子設計、合成、自己組織化、応用を幅広く講演して頂いた。ポスターセッションでは研究室紹介2件を含めた37件の研究発表があり、活発な

議論が行われた。発表内容および討論能力などを参加教員が厳正に審査して、優秀な発表者3名に「優秀ポスター賞」を授与した。なお、「優秀ポスター賞」受賞者は以下の通りである。本会では、招待講演の座長から懇親会の司会進行を大学院生が担当した。学生にとっては初めての経験で戸惑いもあったようであるが、将来の糧となる有意義な経験になったと思う。

### 優秀ポスター賞 一覧

○新潟大 大澤愛美

「フェニル基を有する 3,5-ビス(ヒドロキシメチル)フェニルアセチレンのらせん選択重合」

○富山大 鈴木 久智

「双性イオン型高分子ブラシによる表面改質とバイオセンサへの応用」

○北陸先端大 Watthanapol Jarernbunthitchai

「Effects of poly (propylene) glycol derivatives functionalized with triethoxysilyl, hydroxyl, and methacrylate groups on the performance of transmission holographic gratings」

## 平成 20 年度日本海ポリマーワークショップ報告

実行委員 金沢大学理工研究域 山岸忠明

平成20年度日本海ポリマーワークショップが、平成21年3月10日（火）石川県工業試験場5F トライアルセンター第2

研修室と金沢大学角間キャンパスで開催された。近年の高分子材料は、電気・電子工学、微細加工を含む機械工学、化学工学、バイオエンジニアリ

ングなどの研究分野の融合によって切り開かれつつあり、その典型的な例としてナノテクノロジーによる新たな機能性高分子材料の開発がある。こうした高機能な高分子材料を製品として生かすには、最新の技術とちょっとした工夫が必要であり、研究ばかりでは商品とはなりえない。本ワークショップでは「繊維」に特化した機能性商品を取り上げ、その機能化と最新の技術、および、製品化に結びつく発想と工夫について、エコラボ(株)藤田 鉦則氏による「環境裏話からナイロン改質と製品化～ナノ粒子の活用研究と事業展開～」、およ

び(株)クラレ網屋 繁俊氏による「合成繊維のほなし」という題目で、2件の講演を石川県工業試験場内トライアルセンターで行った。さらに、石川地区の会員から金沢大学が新しい組織(3学域16学類)になって中身がどのようなになったか興味を持たれていたこともあり、会場を金沢大学角間キャンパスへ移してキャンパスを見学するとともに、簡単な懇親会を行ないながら石川地区の高分子関係の研究室紹介を行うことで会員間の交流を深めた。

## 第5回ポリマーフォーラム北陸開催に関する報告

実行委員 北陸先端科学技術大学院大学 山口 政之

第5回のポリマーフォーラム北陸が2010年3月8日、北陸先端科学技術大学院大学で開催された。本会では石川県の大学(金沢工業大学、金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学)から8つの研究室が最近の研究内容をポスター展示により紹介すると共に、4件の講演もあわせて実施した。講演会では、高分子発泡分野で世界的に有名なトロント大学の Chul B. Park 教授の講演をはじめ、県内の上記大学から各1件、成形加工およびレオロジーに関する講演が行われた。

特に、講演の聴講を目的として企業からも30名程度の参加者があり、予想を上回る盛会となった。

各講演の間には十分な休憩時間を設けることで、演者に対する質問を行いやすくした他、その時間を利用してポスター見学も実施していただいた。ポスター会場では軽食と飲料を準備したこともあり、参加者間の交流も進んでいたようである。また、講演終了後には会場となった北陸先端科学技術大学院大学の研究室見学も実施した。

なお、参加者数は全員で57名であり、その中には10名程度の外国人も含まれている。ただし、企業からのポスター展示は1件もなく、ポスター展示を中心としていた本会の開催スタイルを見直すべき時期にきているように感じた。

# 日本海ポリマーワークショップ 2009 報告

富山県工業技術センター 水野 渡

2009 年度の日本海ポリマーワークショップは、平成 21 年 12 月 1 日（火）10:00～17:30 に富山国際会議場（富山市）で大学・学生・企業・公設試から 50 名の参加で開催された。富山地区の日本海ポリマーワークショップでは、これまで「高分子と環境」を大きなテーマとして進めてきたが、今回も、「高分子と環境、もっと使えるバイオマスポリマー」という主題で、この分野の第一線で活躍されている 5 名の企業研究者の先生方の講演と北陸の関連分野からのパネル・製品展示を企画した。先生方には以下の内容で講演して頂いた。(1)「地産地消のバイオマス新素材」ーバイオマスプラスチックの新たなアプローチー（アグリフューチャー・じょうえつ（株））大野孝氏、(2)「ポリ乳酸樹脂の高性能化」（東レ（株））串田賢司氏、(3)「ポリ乳酸の物性改善と低コスト化」ー乳酸、油脂を基盤としたバイオプラスチックの開発ー（バイオベース（株））寺田貴彦氏、(4)「植物由来バイオマスポリマーの成形加工技術と自動車への展開」（神鋼テクノ（株））長岡猛氏、(5)「我が社の

バイオマスポリマー製品の企画・販売とこれからの展望」～NTTネオメイトが提供する『ECO & B』プロダクト～（（株）エヌ・ティ・ティネオメイト）松元健二氏。講演では、種々のバイオマスポリマーの考え方や材料開発から売れる製品までの道筋が示され、参加された企業から製品化を意識した活発な討論があった。パネル・製品展示は、講演された先生方と富山県内の関係企業からあわせて 13 社の展示があった。講演後に、パネル・製品展示説明の時間を設けたが、参加者がサンドイッチとコーヒーを口にしながら熱心に技術開発や商品化について議論・交流することができた。今回のワークショップでは、講演やパネル・製品展示の中で具体的な商品開発の議論が数多くあり、今後の富山県のバイオマスポリマー関係の研究開発のベースとなったのではないかと考えている。開催に協力いただいた富山地区の先生方、企業の担当の方々、講演を頂いた富山県プラスチック工業会と富山県新世紀産業機構、参加されたみなさまに感謝いたします。

## 平成20・21年度富山地区における講演会・高分子交流会開催報告

実行委員 富山高等専門学校 畔田博文

平成 20 年度高分子学会北陸支部講演会（富山）が、平成 21 年 1 月 23 日（金）（15:00～17:00）、富山大学工学部中会議室にて「高分子と環境～リサイクル技術の最前線～」と題して開催されました。大学、企業から 44 名の参加があり盛會に終えることができました。本講演会では、リサイク

ルに関する最新技術として日立化成工業（株）柴田勝司氏からは FRP の常温加アルコール分解法に関する話題、熊本大学 後藤元信先生からは超臨流体を用いたプラスチックのケミカルリサイクルに関する話題をご提供いただきました。

また、平成 20 年度高分子学会北陸支部交流会

(富山)は平成21年1月28日(水)(15:00~18:00)富山大学工学部中会議室ならびに生協食堂にて大学、企業から43名の参加のもと盛会に開催されました。勉強会の部は、富山地区の先生方を講師として招いた勉強会ならびに交流会の二本柱で開催され富山県立大学 川越 誠先生からは固体高分子における水やアルコールなどの吸収と力学特性に関する知識、(株)タカギセイコー 岡田哲郎氏からはプラスチックの生計加工技術に関する知識をご教示いただきました。交流会の部では、学生による富山県内の研究室紹介がユーモアを交えながら行われ、その後、軽食を交えながら和やかな雰囲気のもと、企業人-学生、学生-教員、企業人-教員間の活発な交流が行われました。

平成21年度は、20年度の事業を引き継いだ内容で、平成21年度北陸支部講演会&交流会(富山)として平成21年1月20日(金)(15:00~19:00)富山大学工学部中会議室ならびに生協

食堂にて行われました。この会には県内企業、大学から52名の参加がありました。講演会の部では、フェノール樹脂の最前線と題して金沢大学山岸忠明先生にご講演いただくとともに、(株)ハウステックの高田賢治氏からはFRP樹脂の成形技術に関するご講演をいただきました。その後、前年度と同様に富山県内の高分子にかかわる人々の交流会が活発に行われました。

富山地区においては最先端の高分子にかかわる話題を富山県内の高分子にかかわる人々が共有するとともに、富山県内の高分子にかかわる人材の交流が活発に行うことができたと考えています。最後に、会を盛会に終えることができましたのは多くの方々の支援のおかげであると感謝しております。ご支援いただいた皆様、ならびに積極的に会にご参加いただいた皆様に感謝し、富山地区からの報告とさせていただきます。

## 平成20・21年度福井地区講演会・高分子交流会開催報告

実行委員 前田 寧

平成20年度の福井地区講演と交流会は3月25日(水)11:00~13:00に福井大学工学部1号館1階119S講義室で開催されました。徳島大・ソシオテクノサイエンス研究部の平野朋広先生を迎えて「立体規則性ポリ(N-アルキルアクリルアミド)の合成と相転移挙動」という演題の講演を伺いました。各種の添加剤を加えてラジカル重合で立体規則性を制御したポリ(N-アルキルアクリルアミド)を合成する方法と、得られたポリマーの相転移挙動と立体規則性の関係について丁寧にお話しして頂きました。引き続き行われた交流会では、講演の内容や、講演会では質問し難い基礎概念に関

する質問をはじめとする、さまざまな話題で講師の先生を囲んで議論をしました。

平成21年度の福井地区講演と交流会は1月29日(金)15:30~17:30に福井大学工学部1号館118M講義室で開催されました。名古屋工業大学大学院工学研究科ながれ領域の吉水広明先生を迎え「高分子結晶場を用いた気体分離膜の創成」という演題で講演を頂きました。ポリ4-メチル-1-ペンテンや、シンジオタクチックポリスチレンの結晶構造と $^{129}\text{Xe}$  NMRスペクトルを観測して調べた気体透過・収着特性の関係について分かりやすく説明して頂きました。講演後には前年と同様に軽食を取

りながらの交流会を催し、講師の先生を囲んでさまざまな意見交換を行うことができた。

## 平成 21 年度高分子交流会 [金沢] 報告

実行委員 金沢大学理工研究域 山 岸 忠 明

2009 年 12 月 19 日に高分子交流会「金沢」が金沢工業大学で開催された。本交流会は、大学の学生と企業の研究者が一同に集まり、高分子に関する不思議や疑問について話し合う機会を設定し、会員の高分子について理解を深めることを目的としている。

今回の交流会では、金沢大学および金沢工業大学の大学院生と学部 4 年生を中心に 23 件の発表があり、プロジェクターを利用したショートプレゼンテーションとポスターセッションを行った。約 40 名の参加者による活発な発表と討論が行われた。優れた発表を行った学生には優秀ポスター賞が送られた。学部 4 年生の未完成の発表も歓迎するという趣旨で行われるため、現時点では結論がまとまっていない発表も見うけられたが、熱心に発表・質疑応答する態度は非常に好感が持てた。

最優秀ポスター賞：

- ・「Graphene/Cyclodextrin 超分子複合体の形成」  
金沢大学 市原有人

- ・「原子状水素によるイオン注入レジストの構造解明」

金沢工業大学 丸岡岳志

優秀ポスター賞：

- ・「蛍光タンパク質を利用した色彩機能材料の開発」

金沢工業大学 松田悠治

- ・「フェノール性環状分子とイオン液体との相互作用」

金沢大学 田中駿也

- ・「拡張 Pillar [5]arene の合成」

金沢大学 石森祐介

- ・「微生物吸着基板を用いた有害化学物質の浄化に関する研究」

金沢工業大学 青木久美子

- ・「有害物質の吸脱着機能を有する DNA フィルムの開発」

金沢工業大学 今井勇輔

## 支部会員の窓

### 技術の価値、研究の価値

富山県工業技術センター 水野 渡

ここ数年、私達の職場では、研究開発に必要な経費は「競争的資金を活用する」ことが最優先になっている。このため、なんとかしようと産学官連携のグループを集め、ない頭をひねって「かず打てば当たる」式に申請書を書き上げ、助成機関のヒアリングを受けることになるのだが、申請書やヒアリングの評価項目で「事業化や市場性」等の「お金の換算した価値」の占めるウェイトが急激に増加しているように感じられる。もちろん、競争的資金はそのほとんどが税金で賄われているのだから、助成を受ける研究開発が企業や地域の「売り上げ」に貢献し、最終的には税金として社会に還元されることは理解できる。その結果として、「企業間・地域間競争に勝つこと」や「国際的な技術立国」になることは競争的資金の事業目的として大切なことだとも思う。しかし反面、「技術や研究の価値は、お金の換算して初めて明らかに

なるものだけだろうか。」とも思う。多くの製品や知的所有権や理工系の職業というような社会的な価値（お金）を生み出す手段としての技術や研究だけでなく、音楽等の芸術・スポーツ・お祭りのように、個人の存在意義や一人一人を結びつける手段としてもあってもよいのではないのだろうか。また、伝統工芸のようにそれに携わる人たちが一生をかけて磨き上げるものとして、もっとあってもよいのではないだろうか。技術や研究が私達の心の中に少しの価値を占めることができず、お金の得る手段なのであれば、文字通り「金の切れ目が縁の切れ目」で産学官連携等は限界がすぐそこにあるような気がしてならない（特に、問題が生じたときの解決する力に）。この頃は、産学官の連携が参加する人たちや機関の「持ち寄り」で成り立つようにならないだろうかと考えている。

### 北陸支部にお世話になって

金沢大学 中本 義章

昭和47年に高分子学会に入会し、ゴールド会員に達したことに感慨深く、これまでお世話になった支部の先生方や企業の皆様に厚くお礼を申し上げます。

入会当時、私は工業物理化学研究室に所属して

いたにもかかわらず、本学高分子化学関連研究室の金子、隅田、石田先生のご推薦を得て、学会より高分子研究奨励金を頂くことができた。更に、縁あって金子先生が金沢大学長になられた後の石田先生主宰の高分子研究室に移らせていただき、

今日に到った。昭和58年に始めて北陸支部で討論会を開催することになり、金沢の少ないスタッフが必死に担当したことが昨日のように思われる。現在、北陸支部は討論会や夏期大学を何度も担当し、日本海ポリマーワークショップその他多数の事業が展開され、そのパワーと活発な活動は眼を

見張るものである。支部の発展は、中堅・若手の会員が積極的かつ継続的に高分子の将来に関わっていただくことにある。幸いなことに、本支部には高分子化学関係の大学研究室が多く、学生会員の参加行事を一層充実発展させていただくに願いつつ、改めて支部の御発展をお祈りします。

## 新潟地区の近況

### <新潟大学>

工学部化学システム工学科（青木／金子／寺口）：ポリアセチレン誘導体を中心とした分離膜用新素材高分子の精密合成および分離機能と化学構造との関係の解明を研究している。さらに、ポリアセチレン誘導体やポリ（アリーレンエチニレン）誘導体の主鎖不斉構造、触媒機能、磁気・光特性を検討している。

工学部機能材料工学科（坪川）：ポリマーのグラフト化による無機ナノ粒子やカーボンナノチューブやフラーレンの機能化、及びこれらの新規センサーなどへの用途展開に関する研究を行っている。

（山内）：ナノ・マイクロ表面構造を制御した機能性高分子を用いて、高性能センシング材料の開発を行っている。

（八木）：光エネルギー変換系の構築を目的として、多電子酸化還元触媒能を有する高分子膜の設計・開発、及び高分子膜中の電荷移動の解析を中心に研究を行っている。

（田中）：生分解性ポリエステル製濾過膜・多孔質体-ゲル-複合体・複合酵素反応系などの高性能生物機能材料の開発と応用に関する研究を行っている。

### <長岡技術科学大学>

高分子材料工学研究室（塩見／竹中／竹下／宮）：ブロック共重合体や高分子ブレンドにおける結晶

化・液晶化による相構造形成、官能基を有する新規ジエンモノマーの合成と重合制御有機-無機ハイブリッドゴム材料への展開、ゲル化と相分離の複合によるマイクロ相構造形成について研究中。

有機材料工学研究室（五十野／河原／藤井／山本／赤堀）：高分子・ゴム材料の構造変化と非線形レオロジー、天然由来高分子を原料とする新規有機材料の創製、ナノマトリックス構造形成、高分解能ラテックス NMR、ベシクルの構造と粘弾性、ならびにそれらの応用などを研究中。

機能材料解析工学研究室（小林／于）：超音波、電場や光等の外部刺激応答性や分子選択的認識、分離特性を有するスマートポリマーの基礎と応用について研究中。

生物材料工学研究室（下村／桑原）：生物関連物質と導電性高分子などを組み合わせたハイブリッド材料（センサーやエネルギー変換への応用）について研究中。

高分子機能工学研究室（木村）：セルロース誘導体の液晶・ゲル形成挙動、多糖の形成するナノ構造、多糖誘導体の分子動力学シミュレーション、ビニル高分子のガラス転移のシミュレーション等を研究中。

有機光エレクトロニクス研究室（小野）：液晶高分子を用いた高機能光回折格子素子及びホログラム記録に関して研究中。

<新潟工科大学>

環境科学科(藤木): 無機繊維や無機ナノ粒子存在下における各種高分子の重合挙動、及びグラフト重合によるこれらの無機ナノ材料の表面改質と、得られたグラフト化無機ナノ材料を用いた無機/有機ナノ複合材料の合成に関する研究を行っている。

<長岡工業高等専門学校>

物質工学科(細貝): 懸濁重合における無機固体粉末の安定化効果の解明を行うとともに、固体粉末とポリマーとの複合粒子の調製を検討している。

また、高分子溶液の浸透圧、粘性に関する研究も手がけている。

<新潟県工業技術研究所>

新潟県工業技術総合研究所では、新潟市にある研究開発センターで研究業務を、県内6箇所にある技術支援センターで技術支援や依頼試験、ミニ共同研究(受託研究)を中心に行っている。平成21年度の事業における高分子関係のテーマは、県内企業、大学等との共同による「高齢化社会に適した再生医療普及のための安価な培養システムの開発」に取り組んでいる。

## 富山地区の近況

<富山大学>

富山大学では工大学院理工学研究部に所属する3つのグループで研究が行われている。北野、伊藤、源明らは、荷電平板近傍における同符号荷電微粒子分布測定法による静電相互作用の解析、コロイド結晶のフォトニック素子としての応用開発を行っている。さらに、振動分光法等により得られる各種高分子材料の表面・内部における水の構造と、当該材料の各種細胞との相互作用との相関に着目し、新規の生体適合性材料の開発を試みている。また種々の機能基を表面に有する自己組織化単分子膜や高分子ブラシによる、新規センシング素子の開発も行っている。

小野らは、セリンプロテアーゼの不可逆性阻害剤として知られるホスホン酸誘導体を応用し、これを温度応答性ポリマーに担持させ、新規なセリンプロテアーゼの探索に利用している。特に、酵素資源として魚の内臓に注目し、富山湾で獲れる魚を対象に研究を進めている。また、カーボンナノチューブの直径やカイラリティーによる選別方法の開発を目指し、カーボンナノチューブを水中

に分散できる分散剤の探索も継続している。さらに、分散したカーボンナノチューブを応用した材料の用途開発も視野に入れた研究にも着手している。

<富山県立大学>

工学部・機械システム工学科・エコマテリアル工学講座の川越は、環境調和の観点から、3Rのうちの初めの2R、すなわち、廃棄物排出抑制(Reduce)と製品の再利用(Reuse)にとって重要となる高分子材料(部材)の高耐久性化(長寿命化)に寄与すべく基礎的な研究を行っている。具体的には、1) 固体高分子における水分の吸収挙動と存在状態(凍結挙動)に及ぼす変形(塑性変形)の影響を評価し、それに基づいて高分子の構造変化を推定する研究を進めている。また、2) 化学的環境下で高分子材料の破壊が促進される環境応力き裂(ESC: Environmental Stress Cracking)現象の機構解明に向けた研究に取り組んでいる。

<富山高等専門学校>

富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校は平成21年10月1日に統合し、富山高等専門学校として生まれ変わりました。これに伴い、高廣の所属は物質化学工学科、畔田の所属は専攻科に変わりました。所属は変わりましたが2名とも環境と高分子をひとつのテーマとしてこれまでと同様に研究を進めています。そのいくつかについては次の通りです。高廣は、主に高分子材料、特にFRPの力学的性質に関する研究および、ガラス繊維強化プラスチックのケミカルリサイクル（樹脂の解重合ならびにガラス繊維の分離技術の開発）に関する研究を行っています。畔田は、FRP樹脂分解物の再樹脂化のようなケミカルリサイクルに関する研究、天然ゴムの化学修飾（長岡技科大学河原研究室との共同研究）のような天然高分子の有効利用に関する研究、酵素分離機能を持つポリマーの合成に関する研究（富山大学小野研究室との共同研究）を進めています。私たちは小さな組織の特色を活かし北陸地区の皆さんと、一緒に仕事ができることが出来ればと思っていますので機会がありましたら是非声をおかけください。

<富山県工業技術センター、富山県プラスチック工業会>

富山県工業技術センターでは、各種工業材料や製品の研究、依頼試験、技術相談を行っている。各種事業の中で平成20年度の高分子関係の研究実績を見ると、以下のテーマが見られた。

「機能材料原料としての2官能基エポキシモノマーの合成方法の開発」では、モノマー合成時に有機塩素化合物を使用しないエポキシ樹脂原料の製造方法を開発した。「温度応答性樹脂を用いた医薬・スキンケアに有用なシート剤の開発」では、温度応答性樹脂を架橋して得られるハイドロゲルの合成方法について検討した。「細胞スクリーニング用低コストチップの開発」では、高価なシリコンチップに変わる、安価でチップ表面に反応性を導入した高機能性樹脂チップを開発した。「はんだ

付け用低温硬化型導電塗料の開発」では、開発した導電塗料にさらにフタロシアニンを添加することにより耐湿性・耐熱性に優れたものとなることを示した。「誘導加熱によるプラスチック表面の改質」では、プラスチック表面に金属薄膜を作製してからマイクロ波で加熱することにより表面改質することを試みた。「プラスチック成形加工を用いた静電容量型6軸力覚センサの開発」では、従来の金属製に替わる安価で軽量の静電容量型力覚センサを開発した。「射出成形用中子を開発」では、中空部を有する射出成形品の成形時に使用中子を従来の低融点金属に変わり無機塩を使用することにより軽量で生産に優れるものとすることができた。「回収ガラス繊維のFRP用強化材への利用技術の検討」では、廃FRPを化学的に処理することにより得られるガラス繊維をFRP化する技術を開発した。「塩化ビニル樹脂中の可塑剤の簡易・迅速分析技術の開発」では、塩化ビニル樹脂のリサイクル性を向上させるため近赤外分光法とケモメトリックス解析を用いて樹脂中に複数種混在する可塑剤を分析する技術を開発した。その他、高分子製品の成形・製品開発技術に関しては、県内のプラスチック成形事業所等との共同研究が進んでいる。

富山県プラスチック工業会では、平成19年度より押出成形の自主技能検定制度を行っている。この検定は、独自の検定制度を設けて技術者の育成と成形技術の向上を図るもので、平成21年度は、工業会会員企業10社の協力を得て開催して19名の受験があった。また、産学官の連携を深めるために、学生・生徒へのプラスチックのものづくりへの理解を進める工場見学会の開催や、産学官研究事例発表会を行っている。さらに、会員企業の技術力向上のために、技能検定に向けた成形技術技能講習会や射出成形に関する成形技術高度化セミナー、技術開発・改善事例会員発表会を行っている。この他、プラスチック工業会として「プラスチックと金属の一体成形接合技術開発」を工

業技術センターと共同で行っている。

## 福井地区の近況

<福井大学>

### 材料開発工学専攻

○高分子化学研究室(瀬)：リビングアニオン重合による新規な非線状ブロック共重合体の合成。高分子ブレンドとブロック共重合体の溶液物性と誘電緩和挙動とレオロジーにわたる様々な緩和現象の解明。

○材料物性研究室(佐伯/田中)：状態方程式を基にした高分子固体の成形加工、ポリビニルフロライドの擬相転移現象および高分子固体の内部エネルギー関数の決定。ゲルのレオロジーと高分子液晶の熱物性。

○高分子構造研究室(桜井/佐々木/入江)：キチン、キトサンの応用研究、新規高分子の結晶構造、高分子ナノ微粒子の合成と熱物性、非晶高分子の熱的物性と構造緩和過程に関する基礎的研究、有機超薄膜の結晶成長過程の研究。

○高分子合成化学研究室(橋本/阪口)：リビングカチオン重合による高性能プラスチック・ゴム材料の合成、ケミカルリサイクルを前提とした分解性ポリマーの開発、官能基を有するモノマーの精密重合、メタセシス重合による新規ポリ置換アセチレンの合成、新規気体分離膜材料の開発。

○素材設計研究室(小形/中根)：環境に調和した新素材および材料加工プロセスの開発、有機-無機ハイブリッド機能材料の開発と応用、生分解性高分子材料の開発とその特性解析。

○化学工学研究室(飛田/鈴木)：乳化分散系における制御/リビングラジカル重合の速度論 (Wiley-VCH社の”Best of Macromolecular Journals 2009”に選出。)、高分子の非ランダム分解、単分散ナノサイズ高分子微粒子調製、乳化系シロキサン開

環逐次重合の動力学、半回分乳化重合での効率的連鎖移動剤供給法。

### 生物応用化学専攻

○高分子化学研究室(池田/杉原)：グラフト重合およびリビング重合による高分子材料の機能化を検討。特に、環境に配慮したメタルフリーリビング重合系の開発およびその手法を用いた高感度刺激応答性高分子材料(ナノコンテナやゲル)合成、生分解性高分子の精密合成、セルロースを利用した新規機能材料の開発、有機溶媒中での酵素利用反応。

○生物物理化学研究室(前田寧/前田史)：外部刺激にตอบสนองする高分子材料の開発、赤外・ラマン分光法による高分子の相転移と水和の解析、液体および固体高分解能NMRを用い、種々の観測法を駆使して生分解性ポリマーなどの分子構造解析、および緩和時間測定による静的・動的分子構造と物性・機能との関連性の解明。

### 物理工学専攻

○分子科学講座(玉井)：分子シミュレーションによる蛋白質モデル高分子の水和に関する研究

### 知能システム工学専攻

○知能マテリアル科学研究室(庄司)：人工筋肉(化学・高分子アクチュエータ)の創製と性能評価・駆動技術・評価手法・試作応用、機能性高分子電解質の創製、伸縮性電極材の検討、ナノあるいはマイクロファイバー・ナノ微粒子を利用した電極材の創製、分子認識が可能なセンシングエレメントの創製と電子機能・電気化学、イオンビームによる機能性材料の創製と応用について研究。

### ファイバーアメリティ工学専攻

○インテリジェントファイバー工学講座ファイバー加工工学分野(堀/久田/廣垣)：繊維・色素・界面の関連する物理化学現象を中心に、“超”臨界流体・電子線グラフト重合・光触媒・“超”薄膜・“超”分子・“超”高圧といったキーワードに基づいて、従来技術を“超”える研究を基礎・応用両面から行っています。

○インテリジェントファイバー工学講座ファイバー応用工学分野(田上)：高分子成形加工における高分子流体の粘弾性流動解析および熔融混練による新規材料開発とその成形加工

### <福井工業大学>

福井工業大学は昭和40年設立以来、技術者の養成に努めて39年になる。高分子関係の研究・教育は新素材、生命バイオ、応用化学などを学ぶ応用理化学科で行われている。主な研究課題は環境適合性高分子材料の合成と物性、高分子有機電子材料の合成と物性、高分子の精密構造制御などがある。

産学協同の研究機関として「産業工学研究所」があり、地域社会の技術振興に貢献している。

### <福井県工業技術センター>

福井県工業技術センターでは高分子材料に関する研究を下記3グループで実施している。

○先端マテリアル研究グループ：機械的特性に優れた炭素繊維強化複合材料の実用化を促進するための熱硬化性薄層プリプレグシート高速加工技術に関する研究を行っている。

○化学高分子研究グループ：環境に配慮した高機能化プラスチック材料開発に関する研究として、①汎用樹脂に液晶樹脂をブレンドしたリサイクル可能なプラスチック材料、②植物由来プラスチックとエンジニアリングプラスチックのブレンド材料についての研究を行っている。

○機械電子研究グループ：プラスチック製眼鏡枠製造技術の開発として、樹脂積層造形可能なプラスチックの粉末化研究、樹脂積層造形の技術化研究を行っている。

## 北陸支部会員数

年月	正会員	学生会員	計
平成 16 年 10 月	251	118	369
平成 17 年 10 月	250	128	378
平成 18 年 10 月	240	155	395
平成 19 年 10 月	245	142	387
平成 20 年 10 月	254	143	397
平成 21 年 3 月	250	118	368

# 高分子学会北陸支部内規

## 支部活動

1. 北陸支部の活動を活性化し、支部会員へのサービスの充実、支部会員の積極的な活動の推進、支部活動の国際化と会員相互の親睦のために支部活動を行う。
2. 北陸支部の運営にあたっては、支部理事会を最高決定機関とする。

## 支部役員の構成

1. 支部役員は、支部長、副支部長、理事、会計監査により構成する。
  - 1) 支部長 1 名 支部活動の統括。本部委嘱行事の推進。
  - 2) 副支部長 1 名 支部長の補佐。次期支部長候補。
  - 3) 理事 16 名程度 各県 4 名程度(大学関係 2 名、公立研究所 1 名、企業関係 1 名以上)  
理事は、各県における活動を推進し、支部の決定機関である理事会を構成する。
    - 3 - 1) 支部長は別枠の理事 1 名 (予算・庶務・会計担当) を推薦できる。
    - 3 - 2) 常任理事 4 名、および、別枠の理事 (予算・庶務・会計担当) 1 名  
支部活動を恒常的、円滑に遂行するために、理事会のもとに常任理事会を置き、支部長、副支部長、常任理事 4 名および支部長推薦常任理事 1 名で構成する。  
常任理事は支部長、副支部長を補佐、理事の中心となって、主に次の支部活動を分担推進する。
      - ・ ポリマーフォーラム北陸担当。企業・若手のニーズ、希望の把握を立案に生かす企業・若手担当
      - ・ 支部研究発表会、日本海ポリマーワークショップ担当
      - ・ 支部講演会、国際交流担当
      - ・ 支部活動の電子化、広報、ポリマーメイト担当
      - ・ 予算・会計・庶務担当 (支部長推薦別枠の理事)
  - 4) 会計監査 2 名 支部長経験者を充てる。

## 支部役員の選出

1. 支部長、副支部長を含む支部役員は理事会で決定する。
2. 支部理事は、学会活動の長期的展望に立ち、支部活動目標に沿って活発な支部活動を遂行するために、支部長が委嘱し、本人の承諾を得た後、学会本部理事会の承認を受ける。
3. 常任理事は理事の互選により選出する。

## 役員の任期

1. 役員の任期は、1 期 2 年とし、重任は妨げないが、連続任期は 2 期 4 年までとする。支部長、副支部長の任期は 2 年とする。
2. 役員の交代は 5 月末とする。

#### 理事会・常任理事会の開催

1. 支部長は、定例支部理事会（年2回）、常任理事会（年3回）を召集し、議長を務める。
2. 理事会は支部の重要事項を審議し決定する。
3. 常任理事会は、各担当の活動の進捗状況、将来の立案などについて審議し、支部活動を推進する。  
また、各賞推薦委員会委員を兼ねる。

#### その他

1. 行事实行委員 支部長は、活発な支部活動の推進のために、適宜、行事实行委員を委嘱することができる。
2. 支部事務所は原則として支部長の所在地に置く。

（附）この内規は、平成18年1月から実施する。

## 高分子学会北陸支部 表彰委員会運営規定

第1条（目的・名称） 表彰規定に定める表彰制度の適正な運用のため、北陸支部理事会内に、表彰委員会（以下「委員会」という）を設置する。

第2条（委員会の任務） この委員会は前条の目的達成のため、次の任務を負う。

- （1）表彰制度の検討
- （2）受賞候補者の選考
- （3）北陸支部理事会からの付託にかかわる事項の遂行

第3条（組織） 委員会は、北陸支部理事会が決定した委員をもって組織し、委員長をおく。

第4条（運営） 委員会は、委員長が召集して開催する。その他運営に関する必要な事項は、委員会において定める。

第5条（賞の選考） 表彰規定に基づき厳正に選考する。

第6条（発表） 理事会の承認を得て本人に通知する。

付則 この規定は、平成13年6月16日より実施する。

# 高分子学会北陸支部地域産業振興賞表彰規定

## (総則)

第1条 高分子学会北陸支部地区における個人会員、維持会員あるいは賛助会員が推薦する者が、高分子関連技術の進歩、発展に著しく貢献する業績を挙げていると認められるとき、高分子学会北陸支部が推薦された個人を表彰する。

第2条 表彰は高分子学会北陸支部地域産業振興賞を授与して行う。

第3条 地域産業振興賞とは、高分子に関係し、とりわけ北陸支部の地域の発展、振興に寄与する、技術的、産業的、あるいは社会的業績を言う。

第4条 賞の選考については、高分子学会北陸支部表彰委員会が兼務する。

(1) 表彰委員会は、賞の応募要項を決定するとともに、表彰事業全般の運営に当たる。

(2) 表彰委員会は、賞の選考を行い、その結果を高分子学会北陸支部理事会に報告する。

## (推薦または応募の手続き)

第5条 推薦者または応募者は、一定の様式による推薦書1部と審査に必要な所定の資料を表彰委員会に提出する。

## (賞の決定、表彰の時期、方法)

第6条 高分子学会北陸支部地域産業振興賞は、表彰委員会の報告に基づき、高分子学会北陸支部理事会において決定し、表彰は、原則として高分子学会北陸支部研究発表講演会において賞状を授与して行う。

## (運営の細則について)

第7条 高分子学会北陸支部地域産業振興賞の表彰に関する細目については、表彰委員会で審議し、運営に当たる。

付則 本規定は、平成13年 6月 16日より実施する。

## 平成 22 年度高分子学会北陸支部 地域産業振興賞候補者の募集

高分子学会北陸支部表彰規定に基づき、平成 20 年度「高分子学会北陸支部地域産業振興賞」候補者を下記の通り募集致します。奮ってご応募下さい。

### 1. 応募方法

- (1) 高分子学会北陸支部における個人会員、維持会員あるいは賛助会員の推薦による。
- (2) 賞の対象者：北陸地域における、高分子関連技術の進歩、発展に著しく貢献する業績を挙げた個人。

### 2. 提出書類

- (1) 高分子学会北陸支部地域産業振興賞推薦書 1 部を推薦・応募用紙にて作成のうえ提出して下さい。
- (2) 必要があれば対象となる関連する資料を 1 部提出して下さい。

### 3. 審査・決定

高分子学会北陸支部表彰委員会で審査を行い、その選考結果に基づき高分子学会北陸支部理事会で決定します。

### 4. 表彰

平成 22 年度高分子学会北陸支部研究発表講演会において、賞状を贈ります。

### 5. 応募締め切り

平成 22 年 5 月 31 日（期日厳守）。

### 6. 提出先

下記へ持参するか、書留で郵送して下さい。

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

福井大学大学院工学研究科

高分子学会北陸支部 佐伯 進 宛

### 7. その他

- (1) 高分子学会北陸支部地域産業振興賞表彰規定、高分子学会北陸支部表彰委員会運営規定については、高分子学会北陸支部事務局にお問い合わせ下さい。
- (2) 提出書類は原則として返却致しません。
- (3) 受賞の決定は直接本人に行います。

推薦・応募用紙

対象となる業績	
受賞候補者の氏名 所属・職名 住所・連絡先	
推 薦 理 由	
推薦者の氏名 所属・職名 住所・連絡先	
提出資料内訳	

注1 本用紙あるいはそのコピーにご記入下さい

## 平成 20・21 年度北陸支部役員名簿

支部長 北野博巳 (富山大院理工)

副支部長 佐伯 進 (福井大院工)

理 事	伊藤 研策 (富山大院理工)	岡田 哲朗 (株タカギセイコー)
	金子 隆司 (新潟大超域研)	川越 誠 (富山県立大工)
	畔田 博文 (富山高専物質工)	小林 高臣 (長岡技科大工)
	塩見 友雄 (長岡技科大工)	惣川 武勇 (平松産業株)
	寺野 稔 (北陸先端大院マテリアル)	新田 晃平 (金沢大理工)
	前川 知一 (福井県工技センター)	前田 寧 (福井大院工)
	前田 史郎 (福井大院工)	松田 光夫 (日華化学株)
	水野 渡 (富山県工技センター)	明歩谷英樹 (新潟県工技総研)
	吉村 治 (石川県工試)	
監 査	坪川 紀夫 (新潟大学院自然科学)	川上 雄資 (北陸先端大院マテリアル)

## 北陸支部平成 20・21 年度開催事業

平成 20 年度

1) 支部主催

	名 称 主題・内容	開催年月日	会 場
1.	日本海ポリマーワークショップ	平成 21 年 3 月 10 日	石川県工試・金沢大学
2.	北陸地区高分子若手研究会	平成 20 年 11 月 14 日	すかつとランド九頭竜
3.	支部研究発表会	平成 20 年 11 月 15・16 日	福井大学
4.	地域振興賞受賞講演会	平成 20 年 11 月 15 日	福井大学
5.	特別講演会	平成 20 年 11 月 15 日	福井大学
6.	新潟地区講演会	平成 21 年 1 月 21 日	県央地場産センター
7.	富山地区講演会	平成 21 年 1 月 23 日	富山大学
8.	石川地区講演会	平成 21 年 3 月 19 日	北陸先端大学院大学
9.	高分子交流会 [新潟]	平成 21 年 1 月 21 日	県央地場産センター

10.	高分子交流会 [富山]	平成 21 年 1 月 28 日	富山大学
11.	高分子交流会 [金沢]	平成 20 年 12 月 6 日	金沢工業大学
12.	高分子交流会 [福井]	平成 21 年 3 月 25 日	福井大学

2) 支部共催

	名 称 主題・内容	開催年月日	会 場
1.	化学実験公開講座	平成 20 年 8 月 21 日	新潟大学
2.	富山高専公開講座 化学(かがく)であそぼう、楽しい化学教室	平成 20 年 8 月 1・8 日	富山高専

3) 支部協賛、他

	名 称 主題・内容	開催年月日	会 場
1.	有機合成化学協会新潟シンポジウム 学術研究発表会	平成 20 年 11 月 29.30 日	新潟大学

4) 会員増強対策事業

	名 称 主題・内容	開催年月日	会 場
1.	ポリマーフォーラム北陸	平成 20 年 11 月 1 日	福井大学

平成 21 年度

1) 支部主催

\* 対象欄は該当するところに○を入れてください。

	名 称 主題・内容	開催予定年月日	会 場
1.	北陸地区高分子若手研究会	平成 21 年 8 月 25 日	ウェルサンピア新潟
2.	北陸支部研究発表会	平成 21 年 8 月 27・28 日	新潟大学
3.	地域振興賞受賞講演会	平成 21 年 8 月	新潟大学
4.	特別講演会	平成 21 年 8 月	新潟大学
5.	優秀研究賞授与式	平成 21 年 8 月	新潟大学
6.	日本海ポリマーワークショップ 高分子と環境 もっと使えるバイオマスポリマー	平成 21 年 12 月 1 日	富山国際会議場
7.	富山地区講演会	平成 21 年 11 月 20 日	富山大学
8.	石川地区講演会	平成 22 年 3 月 19 日	石川県工試
9.	福井地区講演会	平成 22 年 1 月 29 日	福井大学
10.	高分子交流会 [新潟]	平成 22 年 3 月 6 日	新潟県「ホテル大橋」
11.	高分子交流会 [富山]	平成 21 年 11 月 20 日	富山大学
12.	高分子交流会 [石川]	平成 21 年度	金沢工業大学

13.	高分子交流会 [福井]	平成 21 年度	福井大学
-----	-------------	----------	------

2) 支部共催

	名 称 主題・内容	開催予定年月日	会 場
1.	化学実験公開講座	平成 21 年 8 月 20 日	新潟大工
2.	富山高専公開講座	平成 21 年 7 月 29 日 平成 21 年 8 月 5 日	富山高専

3) 支部協賛、他

	名 称 主題・内容	開催予定年月日	会 場
1.	有機合成化学協会新潟シンポジウム	平成 21 年 11 月 28・ 29 日	長岡技科大

4) 会員増強対策事業

	名 称 主題・内容	開催予定年月日	会 場
1.	ポリマーフォーラム北陸	平成 22 年 3 月 8 日	北陸先端大

## 高分子科学功績賞

年度	受賞者	受賞テーマ
20	川上 雄資 (北陸先端大)	ケイ素化合物の特異的反応の開発と含ケイ素ポリマーの精密構造・機能制御
21	正本 順三 (福井工業大)	ポリアセタール樹脂の新製造技術の開発

## 高分子研究奨励賞

年度	受賞者	受賞テーマ
20	生越 友樹 (金沢大)	環状ホスト分子を利用したカーボンナノチューブ超分子材料の創成
21	藤井 修治 (長岡技術科学大)	高分子/界面活性剤複合ラメラ相のずり誘起ラメラ-多層膜ベシクル転移機構の解明

## 地域産業振興賞

年度	受賞者	受賞テーマ
20	西野 正和 (日華化学 (株))	水性ポリウレタン樹脂の開発とその応用
21	大野 孝 (アグリフューチャー・じょうえつ(株))	地産地消のバイオマス新素材ーバイオマスプラスチックの 新たなアプローチ

## 平成 22 年度支部開催事業

### <支部主催>

平成 22 年度北陸地区高分子若手研究会	11 月	富山地区
第 59 回高分子学会北陸支部研究発表会	11 月	富山地区
日本海ポリマーワークショップ		新潟地区

### <支部共催>

富山高専公開講座	8 月	富山高専
化学実験公開講座	8 月	新潟大
ミクロスフェア討論会	11 月	福井大

### <支部協賛>

有機合成化学協会新潟シンポジウム	11 月	新潟大
------------------	------	-----

### <会員増強対策>

ポリマーフォーラム北陸		富山地区
-------------	--	------

その他、各地区で学術講演会と高分子交流会が予定されています。多数の御参加をお待ちしております。

北陸支部ニュース No.13

平成 22 年 3 月 31 日発行

発行責任者 北野博巳

北陸支部ホームページ

<http://www2.spsj.or.jp/hokuriku/ppblog/index.php>